關東側諸團体ノ分裂ニシテ、分裂后ノ團体各方倶樂部排撃同盟トシテ倶樂部排撃ヲ標明シタ。ソノ著明ナル實例ハ全國勞働ノ日本勞働倶樂部ニ反對セザルモノハ非階級的ナルカノ如ク[illegible]主義的運動ニ反對スル所謂「左翼」社會民主々義團体ニ至ル迄共産黨、全國勞働組合協議會ハ勿論、日本共産黨ヲ否認シ共産已ノ社會的存在價値ヲ認識セシメントスルノ觀ガアツタ。日本ノ獨立ニ反對シタ。否寧ロ本倶樂部ニ反對スルコトニヨツテ自正又ハ極似ノ右記主義團體ハ濫情的ニ又無批判的ニ本倶樂部サンジカリズム及無政府主義ニ反對スル事ガ發表サル、ヤ直的乃至ハ現實的ノ方法ヲモ兼用スルコトヲ立前トスル點ニ於テ鬪争一本槍ニヨラズシテ、團体協約又ハ共濟保險制度等ノ[illegible]主義方針ハ單ニ机上ノ公式乃至ハ觀念的理論ニ依リ出發ナス[illegible]スル意味ニ於テ共産主義及フアツシズムニ反對シ(ロ)勞働運動ノ其ノ内容ハ(イ)勞働組合ヲ政治鬪爭ノ動員團体視スルコトニ反對

財團法人協調會大阪支所

デアリ、ソノ活動對象ハ倶樂部排撃以外ニ何者モ無カツタコトガ雄辯ニ之ヲ物語ツテヰル。

2

倶樂部ハカクノ如ク一部ノ左翼小數派ノ賑カナル反對伴奏裡ニ生レタノデアルガ、其後ノ活動ニハ目覺マシキモノガアル。卽チ組織ノ方面ニ於テハ同年十一月十八日開催ノ第二回懇談會ニ於テ全國港灣從業員組合聯盟ヲ、十二月十五日開催ノ第三回懇談會ニ於テ日本製鐵勞働組合聯合會ノ新加盟ヲ承認シ茲ニ於テ本倶樂部ノ陣容ハ我國全組織勞働者三十五萬人ノ七割四分二十六萬人ヲ包容スル事トナツタ。

一方事業方面ニ於テハ八月二十七日開催サレタル第一回懇談會ニ於テ自主的勞働組合法、團体協約法ノ調査立案ハ失業問題、勞働時間、最低賃銀等根本的勞働問題解決對策ヲ研究調査スルコトヲ決定シ、夫レ々々調査主査ヲ任命シ、ソノ中勞働組合、團体協約ノ二法案ヲ立案シ、政府ニ對スル其ノ趣旨貫徹ニ關ス

財團法人協調會大阪支所